

学力ってなんだろう？



本日、園を皆に任せ、中央教育審議会主催の研修会に参加してきました。中央教育審議会は、文科省の教育方針を見直すために 文部大臣が諮問する会。学校教育がこれからどう変わっていくのかを考える上でとても興味深い話を聞くことができました。

この10年間で大学進学率は微増を続けていますが、入試に関しては大きな変化が起きています。自己推薦や学校推薦などの利用が半数を上回り、いわゆる入試試験をクリアして入学する学生はどんどん減っているそうです。『試験対策の詰め込み型教育、知識量を競う試験では、子ども達の学力をはかることは出来ない。工場では指示通りに働く工員を育てるための教育は現代にそぐわず、対話力、問題を協働して解決する力を育てなければならない』という趣旨の研修内容でした。学力＝知識量の時代とはもうお別れしましょう。令和の『学力』は、自らが学ぶ力を意味します。子ども同士、そして子どもと教師とが互いに学び合う、協働的な『脱一方通行教育』実現に向け、保育現場から変わって行きたいです。 山田 裕宇記